



平成 31 年 3 月 15 日

各 位

会社名 花月園観光株式会社
代表者名 代表取締役社長 松尾 嘉之輔
(コード番号 9674 東証第2部)
問合せ先 取締役総務部長 堤 道 雄
(TEL 045 - 228 - 8860)

事業の現状、今後の展開等について

当社は、下記のとおり、事業の現状及び今後の展開等について、株式会社東京証券取引所に対し、同社有価証券上場規程第 601 条第 1 項第 4 号 a 本文に定める書面を提出いたしましたので、お知らせいたします。

本書面の提出により、本年 9 月末日までのいずれかの月において、月間平均時価総額及び月末時価総額が 10 億円以上となったときは、同上場廃止基準に該当しないこととなります。

当社はこの度、時価総額基準に抵触し、株主の皆様をはじめ関係者の皆様には多大なるご迷惑とご心配をおかけいたしておりますが、下記「2. 今後の展開について」に記載いたしました事業計画の推進により、業績の向上を図り、市場の信頼を回復することによって、今後も東京証券取引所第二部上場を維持するよう努めてまいります。

記

1. 事業の現状について

当社は、現在競輪を主体とした公営競技の専用場外発売所の賃貸、運営受託及びそれに関連するコンサルタント業務に特化し事業展開しております。

なお、創業の地であった花月園競輪場は平成 22 年 3 月末を以って廃止され、当社は同地から完全撤退しております。

事業別の概要は次のとおりであります。

(1) 専用場外発売所事業

① サテライト石鳥谷（競輪）岩手県花巻市

平成 11 年 7 月に開業した競輪の専用場外発売所であり、開業後の業績は順調に推移してまいりましたが、平成 22 年 4 月より経営合理化のため投票及び運營業務全般を委託し、現在施設賃貸料が当社の主たる収入源となっております。

ファンの高齢化、新規顧客獲得の伸び悩み等により車券売上は低減傾向が続いておりましたが、直近 3 期は様々な営業施策により横ばいとなっております。

②サテライトかしま（競輪）福島県南相馬市

平成 10 年 9 月に他社が開業した競輪の専用場外発売所であり、平成 19 年 11 月に当社が事業を譲受け当社所有の事業所となりました。譲受け後の業績は順調に推移してまいりましたが、平成 23 年 3 月の東日本大震災並びに東京電力福島第一原子力発電所事故の影響により約 800 日休業いたしました。なお、同社よりこの間の補償金を得ております。

また、営業再開に際し、更なる経営合理化を目指し運營業務全般を委託し、現在施設賃貸料が当社の主たる収入源となっております。

営業再開後数年の業績は好調に推移いたしました。また、周辺の復興並びに除染作業もひと段落し、直近の車券売上は減少傾向となっております。

③サテライト・オートレース大和（競輪・オートレース）宮城県黒川郡大和町

平成 16 年 3 月に他社が開業した施設であり、平成 28 年 4 月より当社が同施設を賃借し運営しておりますが、当社は運営管理に特化し場内の運營業務は外部に委託しており、運営管理料が当社の主たる収入源となっております。

平成 28 年 9 月よりオートレースの車券発売を開始し、複合型場外化を果たしましたが、周辺地区には地方競馬とボートレースの場外発売所があり、競合施設となっております。

④サテライト・オートレース横浜（会員制・競輪及びオートレース）神奈川県横浜市

平成 16 年 10 月に当社が共同出資にて設立した株式会社サテライト横浜が、桜木町駅前のテナントビル「ぴおシティ」に開業した会員制の施設であり、その後、同社株式の 100%を当社が取得、平成 27 年 10 月に同社を吸収合併し現在に至っております。

平成 25 年 9 月には、オートレースの専用場外発売所「オートレース横浜」を併設し複合型場外化を果たし、当社売上高の 8 割以上占める主たる事業所となっております。

しかしながら、競輪業界においてはファンの高齢化や新規顧客獲得の伸び悩みが続き、当事業所もその影響で車券売上は減少傾向となっております。

⑤ジョイホース浜松（地方競馬）静岡県浜松市

平成 25 年 2 月に当社が共同出資にて設立した株式会社シティーリゾート（当社関連会社）が開業した施設であり、開業当初から厳しい状況が続いておりましたが、出資者の経営支援（資金融資、人材派遣等）により同社の業績は好転し、現在では単年度黒字を計上するとともに当社貸付金も一部返済されております。

（2）業務受託・コンサルタント事業

当社は、花月園競輪及びサテライト事業で培ったノウハウを活かし、競輪を主体とする場外発売施設の開発、運営受託及びコンサルタント業務を推進しております。

平成 25 年 1 月に開業したサテライト徳島においては、開業前からコンサルタント業務を受託し予定通りの開業に至りました。また、平成 29 年 12 月にはコンサルタントとしてオートレース徳島の開業準備に携わり複合型場外化を果たし、現在はオートレース徳島の運営管理業務受託並びにアドバイザー契約を締結しております。

以上、現状に基づく当社の直近3事業年度の収支、財務状況は次のとおりであります。

(単位：百万円)

| 決算期 | 平成29年3月期 | 平成30年3月期 | 平成31年3月期 (予想) |
|-------|----------|----------|------------------|
| 売上高 | 891 | 844 | 808 |
| 営業利益 | 63 | 24 | 18 |
| 経常利益 | 52 | 13 | 4 |
| 当期純利益 | △302 | 12 | 1 |
| 純資産 | 610 | 621 | 609 |
| 総資産 | 1,178 | 1,135 | 1,216 |
| 借入金残高 | 414 | 361 | 380 |

(注) 平成31年3月期の純資産、総資産、借入金残高は平成31年3月期第3四半期現在

2. 今後の展開について

事業の現状を踏まえ、当社は中核事業である専用場外発売所の更なる合理化と顧客サービスの向上に努め増収増益を図ってまいります。また、各事業所のみならず管理部門の合理化にも積極的に取り組み、更なる経費節減に尽力するとともに役員報酬の大幅カットも継続してまいります。

事業別の展開は次のとおりであります。

(1) 専用場外発売所事業

①サテライト石鳥谷においては様々な営業施策を講じた結果、本年度の売上高が前年度を上回る状況で推移しており、また、早期の複合型場外化を目指し、既に他公営競技関係者へのヒアリングも開始しております。他方、開業から20年が経過し施設の老朽化が進み、今後施設更新の検討も進めてまいります。

②サテライトかしまにおいては、今後更なる販促活動、ファンサービスに尽力し業績向上に努めてまいります。また、当施設は8万8千㎡の敷地を擁しており、未使用地の利活用を引き続き検討してまいります。他方、開業から21年が経過し施設の老朽化が進み、今後施設更新の検討も進めてまいります。

③サテライト・オートレース大和においては、同施設内スペースにゆとりがあり、今後地元選手との交流会、レース予想会、抽選会の実施やキッズコーナーの充実などにより、更なる集客に積極的に取り組むとともに新規顧客の獲得にも努めてまいります。

④主たる事業所であるサテライト・オートレース横浜においては、平成29年4月にリニューアル工事を実施するとともに、新たな試みとしてU40クラブの創設とポイントサービスを開始し、同年9月からはミッドナイト競輪の前売発売を、10月からは全国2番目となる1日8場発売を開始しております。また、平成30年10月には投票関連業務の自営化を開始し大幅な経費削減を果たしました。更には、

オートレースエリア移設等の施設配置の見直し、キャッシュレスを含めた新しい車券発売方法の検討など、積極的に増収増益策に取り組んでおり、平成 31 年度（2020 年 3 月期）から翌年度にかけこれらの施策が全て実現されることにより、大幅な収支改善が見込まれると考えております。

また、2020 年 6 月には横浜市庁舎が至近距離に新設され約 6 千人の職員の方が移動し、昼間人口が大幅に増加するため、当社も新規会員獲得の大きなチャンスと捉え様々な販促活動を展開してまいります。

- ⑤ジョイホース浜松においては、来年（2020 年）2 月に入居するビルとの賃貸借契約期間が満了となり、同施設を運営する株式会社シティーリゾートは単年度黒字を計上してはいるものの、経営支援を続けている当社における収支は厳しい状況が続いているため、賃貸借契約期間満了に併せ、今後の対応について出資者間で話し合いを進めてまいります。

（2）業務受託・コンサルタント事業

業務受託・コンサルタント事業においては、公営競技は全体的に厳しい状況にあるものの、賃貸物件の空きスペースに公営競技の場外発売施設新設の引き合いがあります。これまで数々の案件が持ち込まれ、現在も複数の案件を検討いたしておりますが、優良な案件を選別したうえで積極的に取り組み、売上のみならず収益にも貢献できる事業に成長させてまいります。

3. 今後の見通し及び上場維持について

当社は、これまで激変する経営環境に対応すべく事業構成の見直し、希望退職者の募集、役員報酬のカットなど様々な合理化に取り組んでまいりましたが、引き続き営業部門、管理部門を問わず更なる合理化を推し進め、当社株式の月間平均時価総額及び月末時価総額について、株式会社東京証券取引所の定める基準を上回ることにより、今後も東京証券取引所第二部上場を維持するよう努めてまいります。

今後の事業計画については、「2. 今後の展開について」で述べた内容に基づく様々な施策により、平成 30 年度は営業収益を確保できる見通しであり、また、平成 31 年度並びに翌年度については、サテライト・オートレース横浜の経費節減効果が通年に亘り見込まれるため、更なる収支改善が可能と考えております。なお、競輪の車券売上高の動向が不透明なため、具体的な数字の確定には至りませんが、今後も休むことなく合理化を推し進め、着実に営業収益が見込める収支構造に改善してまいります。

株主の皆様をはじめ関係者の皆様には多大なるご迷惑ご心配をおかけいたしますが、今後とも引き続きご理解ご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

以 上